

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2017 年度事業計画

<基本方針>

協同の基盤づくりを通し、中間支援組織として社会的課題解決への役割を果たします。

<課題>

1. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます。
3. コープこうべや他団体との連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を高めます。

I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。

1. ボランティア活動助成

2017 年度助成に向けて、2016 年 10 月～11 月に説明会を 9 エリアで実施しました。丹波篠山では、財団設立 21 年間で初めての開催となりました。

(1) 募集および申請状況

募集は 2016 年 10 月 20 日から、当財団ホームページ、コープこうべホームページ、機関紙「きょうどう」での広報に加え、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、下記のと通りの申請状況でした。

助成金説明会では、当財団の成り立ちや、目的、助成の特徴を理解いただいた上での申請をお願いしました。また説明会の後半に参加したグループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としました。

	申請 (グループ数 / 金額 (円))	助成(案) (グループ数 / 金額 (円))
福祉等	146 / 13,769,000	120 / 7,292,000
環境	37 / 3,372,000	30 / 1,832,000
合計	183 / 17,141,000	150 / 9,124,000

(2) 審査について

審査基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の審査基準を記載し、公開しています。

- ◇活動の公益性：課題把握、公益性
- ◇社会貢献度：活動の必要性、課題と活動との一致、地域密着度
- ◇活動の継続や発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力
- ◇収支の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

(3) 今年度の特徴

新規申請グループ数は2015年度から3年連続で増加し、今年度は49グループでした。一方、世話人の高齢化や自立などの理由により、申請をやめたグループもあり、全体の申請数は昨年度から5グループ減りました。ただし、下記の表のとおり、1グループあたりの平均申請額は、毎年増加しています。助成予算は毎年大きくは増えないことから、不採択や減額を増やさざるを得ない状況です。

	申請件数				
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
福祉	141	144	155	152	146
環境	31	30	28	36	37
合計	172	174	183	188	183

	上記のうち、新規申請件数				
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
福祉	22	21	33	30	42
環境	7	4	3	9	7
合計	29	25	36	39	49

(4) 2017 年度助成

分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成給付率(%)
①	福祉	高齢者	32	1,313,000	14.4
		障がい者	21	1,493,000	16.4
		地域住民	7	201,000	2.2
		在日外国人	1	108,000	1.2
		施設・病院	2	24,000	0.3
		その他(子育て中の親)	2	191,000	2.1
		合計	65	3,330,000	36.5
②	まちづくり		6	350,000	3.8
③	文化・芸術		4	486,000	5.3
④	国際協力		3	274,000	3.0
⑤	男女共同参画		1	135,000	1.5
⑥	子ども育成		41	2,717,000	29.8
⑦	環境の保全		28	1,661,000	18.2
⑧	その他(生活環境)		2	171,000	1.9
合 計			150	9,124,000	100.0

(5) 助成決定後のサポート

①ともしび通信や情報の提供

年4回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成グループの皆さんに役立つ情報を送付していきます。

②交流会の開催

5月17日に全助成グループが集う「市民活動交流会 2017」を開催します。交流会の実行委員の皆さんから、「活発に活動しているグループの発表を聞いてみたい」と声上がり、2グループにステージで活動報告いただくことになりました。その後、全員でグループ交流を行います。

③ホームページでの助成グループ情報強化

2016年度から、全ての助成グループ情報をホームページに掲載しています。2017年度はグループからイベントやメンバー募集などの情報を集め、同財団のホームページなどにタイムリーに掲載し、グループの広報をサポートします。

④分野別交流会の開催

希望により分野別交流・研修会を開催し、ステップアップの機会とします

(6) 助成グループのステップアップのための機会の提供

①「アドバイザー制度」継続

昨年度好評だった、アドバイザー制度は継続します。(1～3グループ程度)。アドバイザーは当財団の運営委員を中心にお願いし、グループの課題と資源の整理、活動の新たな展開の視点、より社会的インパクトのある活動にするにはどうすればよいかなどについて、個別にアドバイスを受ける機会を提供します。

② 「申請書の書き方」セミナーの継続実施

「申請書の書き方のコツ」のセミナーも希望者が多いことから、今年度も、このセミナーをさらにステップアップして継続予定です。

(7) 2018 年度の助成金説明会の開催にむけて

①今年度は下記 9～10 箇所で行う予定です。日時未定のところは、5月に会場を確保次第決定します。

日時	開催エリア	会場（予定）
10/31（火）	神戸市中央区	兵庫県民会館 福 ※申請書の書き方セミナーも含む
11/2（木）	姫路市	じばさんビル 601 号室
11/6（月）	宝塚市	宝塚商工会議所
11/8（水）	淡路市	淡路市サンシャインホール 研修室
11/11（土）	神戸市東灘区	コープこうべ住吉事務所 7 階 会議室
11/14（火）	三木市	コープこうべ 協同学苑
11/16（木）	篠山市	篠山市民センター
11/17（金）	西宮市	西宮市民会館
11/24（金）	明石市	明石市生涯学習センター

2. 社会人の学びと研究助成

2017 年度申請状況

「活動現場をすでに持っている社会人が、学びを深め、地域に還元するための助成」として、名称も、「社会人の学びと研究助成」に変更し、募集を再開しました。6 件の応募があり、4 件が二次審査にすすみました。

(3) 助成 (案)

お名前	在籍する大学院	研究内容
久保 宏紀	神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 医療リハビリテーション学専攻	地域ボランティアの協力を得ながら、高齢者の身体機能を経年的に測定し、呼吸機能の低下による肺炎の発症予防に着眼。呼吸機能を維持するために必要な身体機能を検討し、運動や生活上の注意点を研究。その内容を地域にフィードバックするための健康パンフレットを作成するとともに、地域ボランティアと一緒に介護予防に向けた研修会を開催予定
井原 一久	大阪市立大学大学院 創造都市研究科 都市政策専攻 都市経済・地域政策分野修士課程	地域スポーツクラブ「アスロン」を運営する NPO の理事長。神戸市や兵庫県などと学校体育における連携事業などを実施。スポーツクラブの地域の居場所としての社会的有用性について研究し、健康増進だけでなく、社会的包摂など地域課題を解決しうるコミュニティとしての在り方を探っていく。

3. 社会的課題解決にチャレンジする団体への助成

(1) 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」スタート

地元企業7社から寄付金 総額 100 万円をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げることになりました。

これは、新しい助成制度として、ともしび財団への寄付を通し、地元・ひょうごのくらしをよくしたいという企業、コープこうべとともに創設します。

このプロジェクトで助成するグループは法人格を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジするグループに門戸を広げます。

●年間予算 100万円 上限 50万円/グループ

(2) 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」キックオフ

① 「寄付ラン」の開催

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」のキックオフイベントとして賛同企業の1つである「カネテツデリカフーズ(株)」さんとともに六甲アイランドで「寄付ラン」を共催し、寄付を集めるとともに、これまで財団を知らなかった層への認知度アップを図ります。

当日は視覚障がいのある方の歩行やランを応援している「ひょうご伴走歩協会」のメンバーも参加して活動紹介も行い、ボランティアメンバーの募集の場としても活用します。

② 賛同企業の拡大を呼びかけ

2016 年度には地元7社のご協力でスタートしましたが、今年度は趣旨に賛同し、プロジェクトに加わっていただく企業を拡大するため、地元企業を中心に訪問するなどして呼びかけを行います。

(3) 「地域のつどいの場づくり」立ち上げ助成 3年目の実施

居場所立ち上げ助成は、20周年記念事業の1つとして、2015年度に初めて実施し、今年度が3年目、最終年度となる予定です。今年度はセミナー&説明会を10月6日に実施予定。審査・決定は、当財団の運営委員会で行います。

●年間予算 60万円 上限 20万円/グループ

4. ひと育て、学びの場の充実

(1) ボランティアや地域課題の学びの場を支援

2015年度から、財団が主催・運営までを行うのではなく、下記の4つの柱を基にした講座を開催するグループや団体を後援・協力していく方法に変更しました。2017年度もこの方法で進めます。

- ① ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ② グループマネジメントを強化する講座
- ③ ボランティアグループの技術向上と継承をサポートする講座
- ④ 社会的課題を考える講座

(2) 新しい課題について啓発する講座を開催

最近問題になっている、「子どもの貧困」について、2016年度は財団スタッフ・運営委員を中心に理解を深めるため、山科醍醐こどものひろばの村井琢哉理事長を講師に、学習会を行いました。

2017年度は、「子ども食堂」をテーマとした全国キャラバンのセミナー（「子ども食堂の輪全国ツアー実行委員会提唱」）を兵庫県で実施するにあたり、ひょうご子どもカフェなどとともに主催団体の1つとして参加します。

※「ひょうご子どもカフェ」は兵庫のみんなで子どもの貧困を考え、行動していくゆるやかなネットワーク。行政職員、弁護士、学識者、NPO法人など様々なメンバーが参加して2015年6月から活動開始。当財団も2016年度から参加しています。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます。

1. 助成グループの活動を積極的に広報し、共感を広げる

当財団の助成を受けているそれぞれのグループには、地域で活動する中で、様々な場面、エピソードがあります。そこで、グループを実際に訪問し、活動の状況や、活動によって地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、写真や動画も含めて、“物語”を紡ぐボランティア（「ツムギスト」）を募集します。必要に応じて研修も行い、完成した“物語”を当財団のホームページ、説明会等で活用することで共感を広げます。

2. 「古本募金」のしくみをよりわかりやすく広報し、参加者を拡大

2016年7月から始めた「古本募金」の取り組みは参加者が増え、毎月2万をこえる新しい募金的手段に成長しています。
広報や、ツールを工夫することで、より取り組みやすい募金として、参加者を増やしていきます。

3. 第3次中期計画策定の準備

2017年度が第2次中計の最終年度のため、2017年度中に第3次計画を策定するところですが、現在ひょうごプロジェクトほか、新たなプロジェクトが様々な動き始めていることから、これらの定着をみながら2018年度に策定するものとします。

2017年度は現状の把握、調査を行うことにし、社会的課題解決に向けて、行政や中間支援組織、他団体から出されている助成金の内容や役割について、情報を集めます。同時に、当財団の現在のボランティア活動助成の枠組みがニーズにあっているのかなどについて、検討を行います。

Ⅲ. コープこうべや他団体との連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を高めます。

1. 広報強化の継続・発展

- (1) コープこうべ関係部署との連携
- (2) SNSの活用
- (3) 社協、中間支援組織による広報の拡大

2. 人材育成の連携強化

- (1) 当財団の活動・研修へのコープこうべ職員の参加促進
- (2) 当財団の助成グループへのコープこうべ職員の活動参加
- (3) コープ委員会へのヒアリング、取材の実施

3. 資金調達の連携強化

(1) 2017年度 賛助会費・寄付・募金の目標

2016年度は、目標を達成しましたが、2017年度は低金利の情勢の中、基本財産の運用利益が低下することが予想されていますので、寄付や募金をより増加させる必要があります。

(2) インターネット事業部との連携

財団の助成グループなどに、コープこうべネットでの書籍注文の紹介を行うと同時に、「古本募金」のチラシにもコープこうべネットでの書籍注文について掲載します。ネット事業部でも、書籍注文のページに財団の「古本募金」のバナーを貼るなどし、互いに連携を図ります。

(3) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。今年度も、夕食サポート事業「まいくる」の利用者や、配達に携わるサポーターに、事業が地域ボランティアへの貢献にも役立っていることをお知らせし、生協らしい取り組みとして広げていくための広報を担当部署とともに実施します。

(4) 2017年度の助成金総額と資金調達の必要性

財団に助成を求める新規グループは数、金額ともに年々ふえています。また、新しく創設した助成の枠組みもあり、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。今年度もあらゆる視点で新たな資金調達をすすめます。

◆ 2017年度助成金総額	総額	1120万4千円
ボランティア活動助成		912万4千円
居場所立ち上げ助成		60万円
社会人の学びと研究助成		50万円
「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」		100万円

4. 基本財産運用

有識者からのアドバイスも得ながら、財産運用規則にのっとり、継続的に検討していきます。